

1 道徳における教育課程実施上の課題と指導上の留意事項

(1) 道徳の教科化

- ① 教育再生実行会議第一次提言「いじめ問題等への対応について」(H25. 2. 26)
 - ・ 心と体の調和のとれた人間の育成に社会全体で取り組む。
 - ・ 道徳教育を新たな枠組みによって教科化し、人間性に深くせまる教育を行う。
- ② 道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について」(H25. 12. 26)
 - 1) なぜ今、道徳教育の充実か
 - ・ 道徳教育は、より良く生きる人格の形成を目指すものであり、教育の根本に据えられるべきもの
 - ・ 理念の共有や教員の指導力など多くの面で課題が存在
 - ・ 道徳教育の充実は、今後の時代を生き抜く力を一人一人に育成する上で緊急課題
 - ・ 道徳教育が学校の教育活動全体の真の中核としての役割を果たすよう、早急に抜本的な改善・充実を図ることが必要
 - 2) どのような方向に改善することが求められるか
 - ・ 道徳教育を学校の教育活動全体を通じて行うとの考え方は今後とも重要
 - ・ 道徳教育と道徳の時間の目標を分かりやすい記述に改め、両者の関係を明確化
 - ・ 数値による評価は今後とも実施しない 他
 - 3) 教育課程上の位置付け →道徳教育の充実を図る
 - ・ 道徳の時間を、例えば、「特別の教科道徳」(仮称)として新たに位置付け
 - 4) 条件整備
 - ・ 「心のノート」の全面改訂 →「私たちの道徳」
 - ・ 教科書(検定教科書)の導入が適当
 - ・ 学級担任の指導が原則
 - ・ 授業改善のための校内研修の充実 ←教員の指導力向上
 - ・ 道徳教育への社会全体での取組を ←学校や家庭や地域の連携強化
- ③ 教科化の検討は 3 回目 →学校教育でしっかり道徳教育を



(2) 魅力的な教材の開発や活用

- ① 道徳の時間に用いられる教材の具備すべき条件 (学習指導要領解説 P. 99)
 - ・ 人間尊重の精神にかなうもの
 - ・ ねらいを達成するのにふさわしいもの
 - ・ 生徒の興味や関心、発達の段階に応じたもの
 - ・ 多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの
 - ・ 特定の価値観に偏しない中立的なもの
- ② 道徳の時間の教材として考えたい条件
 - ・ 感性に訴え、感動を覚えるようなもの
 - ・ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
 - ・ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など、人間としてより良く生きることの意味を深く考えることができるもの
 - ・ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの

中学校 道徳

- ・ 悩みや葛藤等の心の揺れ，人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
 - ・ 多様で発展的な学習活動を可能にするもの
- ③ 具体的な教材例
- ・ 先人の伝記
 - ・ 自然を題材としたもの
 - ・ 伝統と文化を題材としたもの
 - ・ スポーツを題材としたもの

(3) 「私たちの道徳」の活用

① 趣旨

道徳的価値について自ら考え，実際に行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材

② 特徴

- ・ 道徳の時間はもちろん，学校の教育活動全体を通じて，また，家庭や地域での活用を期待
- ・ 学習指導要領に示す道徳の内容項目ごと「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成
- ・ 児童生徒の発達の段階を踏まえ，先人等の名言，偉人や著名人の生き方に関する内容を多く取り上げるとともに，いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化，情報モラルに関する内容などを充実

③ この本の使い方（「私たちの道徳」P.4）

- ・ 文章や資料を読んで，自分の考えをまとめたり，書いたりしてみよう。
- ・ 「読み物」を読んで，感じたこと，考えたことを記録したり友達と話し合ったりしてみよう。
- ・ 「人物探訪」「この人のひと言」「メッセージ」などを読んで，考えたことをまとめたり，自分で見つけた言葉などを書いたりしてみよう。
- ・ 「学校で」友達と考えを出し合い，話し合ってみよう。
「家庭で」家の人と話し合い，意見を交換してみよう。
「地域で」地域の人と話し合ったり，意見を聞いたりしてみよう。



④ 活用

- ・ 道徳の時間で
- ・ 学校の教育活動全体で
- ・ 家庭や地域で
- ・ 児童生徒が自主的に

(4) 道徳教育における評価

① 道徳教育の評価

- ・ 生徒自身による自己評価を生かして新たな目標への努力を支援する。
- ・ 生徒の道徳的なよさや道徳的成長に対する共感的な理解に基づいて，指導計画や指導方法を評価し，その結果を指導の改善に生かしていくことが求められている。

② 道徳性の評価

- ・ 生徒自らが成長を実感し，新たな課題や目標を見つけられるよう，教師が生徒の道徳的な成長を温かく見守り，よりよく生きようとする努力を認め，勇気付ける働きを重視する必要がある。